

平成24年度の野焼き実行委員会開催

7月10日（火）午後、城島高原ホテルで今年度の猪の瀬戸湿原野焼き実行委員会が開催されました。

出席者は、環境省くじゅう自然保護官事務所の佐保光康氏、県生活環境企画課山川昌之氏、別府市役所から小林文明、堀英樹、平松淳一の3氏、消防本部から本田敏彦氏、浜崎仁孝氏、地元消防団第14分団の斉藤孝一氏、城島地区自治会から田原日出夫氏らが出席し、保全の会からは川野理事長、生野喜和人、小田毅、児玉清一郎、渡辺新十郎、藤内広三ら役員が出席しました。また、(株)城島高原オペレーションズからは志賀敏昭社長はじめ8人の関係者が同席しました。主な内容は、昨年度の反省に基づき区割りをA区（昨年



(株)城島高原オペレーションズ

のⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ区を合わせて) B区（昨年のⅤ区）とC区（今年度新たに城島川左岸）の3区に分けて平成25年2月24日(日)実施することが承認されました。

また、当日の活動は飛び込みのボランティアを動員することなく保全の会会員が主体となつて行ない、それに伴う諸準備や用具等について話合われました。今回は地元消防団が参加してくれることになり、ありがたい限りです。今年は県道沿いのC区が新たに加わりますが、十分な輪地幅を確保して延焼事故の無いよう気をつけなければなりません。

外来種駆除活動

保全の会の活動が始まって以来、県道沿いの外来種イタチハギの刈り取り、昨年からアメリカヤマゴボウをはじめ目立った外来種の駆除活動をしています。依然として旺盛な生育状況にあります。

今年も7月22日の定例活動日に草刈り機を使ってイタチハギを一斉に刈り取り、花穂の付いた部分を集めて市の環境課を通じて焼却処分をお願いしました。一度侵入すると根絶はなかなか困難になります。十分な水を確保して本来の湿原植物が復活するまでには気の長い取り組みが必要です。

オオキツネノカミソリの大群落

猪の瀬戸湿原の奥、水口山の麓にオオキツネノカミソリが群生していて、7月の中旬になると一斉に開花します。

この花はキツネノカミソリと同じヒガンバナ科で樹林の中でキツネノカミソリより花期が早く、やや大きめの花を咲かせ、雄蕊が花弁より長く、外へ出ることによって区別されます。水口山の群落は壮観です。

